

明治期以降曹洞宗人物誌（七）

川口 高風

はじめに

本稿は「愛知学院大学教養部紀要」第六十二巻第四号（平成二十七年三月）に所収の拙稿「明治期以降曹洞宗人物誌（六）」の続編である。全項の人物誌が完成した時は『近代曹洞宗人名辞典』と題して刊行する予定で、一日も早い完成をめざし精進している。

凡例

〔見出し項目〕

- 一、収録人物は明治期以降に宗門の発展に活躍した人物で、その出典は「明教新誌」「宗報」「曹洞宗報」を中心に、明治、大正、昭和期以降に刊行された著作や各種雑誌、新聞などから採取した。
- 二、見出しの人名は当時用いた旧漢字とした。事歴の本文は新字体を用いたが、旧字体を使用したものもある。

- 三、見出しの項目はかな見出しを太字で示し、次に漢字を掲げた。
- 四、かな見出し項目は姓と名の間にダッシュを挿入して読みやすくした。

〔見出し項目の配列〕

- 一、配列は五十音順の予定であったが、「い」以降は完成した原稿の順序とした。そのため本稿では「て」「の」「へ」「む」「め」「ゆ」の項をとりあげた。
- 二、同音同字の漢字項目は時代順（没年順）に配列した。
- 三、同音異字の漢字項目は第一字目の画数の少ないものからの順とした。また、第一字目が同画数の時は第二字以降の画数の少ないものから配列した。

〔本文の記述とその順序〕

- 一、本文の記述は敬語、敬称の使用を避けた。
- 二、収録にあたっては居住地、号、字、生年月日、父母、誕生地、受業師、本師、学歴、僧堂安居歴、宗門役職歴、社会的職歴、著作類、示寂（没）年月日、行年、参考文献の順とした。不明な場合は記していない。
- 三、本文は基本的に、編著者が直接、居住地へ問い合わせを行った返書（調査用紙）にもとづいて執筆した。それ以外に参考とした文献は末尾に掲げた。
- 四、伝記中の元号の一番最初（初出）に西暦を入れた。ただし、伝記中の生没年には西暦を入れない。
- 五、寺院の所在地が郡の場合は県を入れ、市の場合は県を省略した。なお、平成の大合併による新市町村名への変更を行っていないものもある。
- 六、居住地は歴住の順序通りでないものもあり、何世か不明な場合は記していない。

て

でしまるーたいせん 弟子丸泰仙

大正三年(一九一四)ー昭和五十七年

(二九八二)

受業師沢木興道、本師山田靈林。大正三年十一月二十九日に佐賀県佐賀郡に生まれる。横浜専門学校を卒業後、実業界に身を置きながら、沢木興道に参禅を続け、昭和四十年(一九六五)に同師について得度した。四十二年には単身で渡仏し、パリに仏国禅寺を開創した。四十五年春には永平寺に掛搭し、その後、「ヨーロッパ禅協会」を設立して自ら会長に就任。五十一年には曹洞宗ヨーロッパ開教総監となり、禅仏教の布衍に努めた。著書に『パリの禅僧』『禅僧ひとりヨーロッパを行く』『ヨーロッパ狂雲記』『日本人に『喝』『禅と文明』など多数ある。五十七年四月三十日に世寿六十七歳で示寂した。(『宗報』五六一号、『傘松』四六四号)

てつおうーじゅせん 哲翁寿仙

弘化三年(一八四六)ー昭和六年(一九

三二)

真庭市善福寺十四世、南島原市玉峰寺二十三世。号は老麟。弘化三年十一月八日に長崎県南高来郡口之津に生まれる。受業師は鶴林良寿、本師は定央大愚。行脚修行に身を任せた後、明治六年(一八七三)七月に善福寺に住職し、三十八年四月に玉峰寺へ転住した。岡山県に在住中、岡山県曹洞宗支局長や曹洞宗関西中学林評議員を務め、宗門教学の振興に尽くした。大正二年(一九一三)に島原各宗合同免囚保護会を組織するなどして、昭和六年六月八日に八十八歳で示寂した。(『歴住世代過去帳』『哲翁多まよ自叙伝』『曹洞宗名鑑』)

てづかーぶんとう 手塚文棟

天保九年(一八三八)ー明治三十二年

(二八九九)

山形県東置賜郡永松寺二十三世、長井市雲洞庵十九世。号は梁山。山形県東置賜郡小松町の手塚次郎の四男に生まれる。受業師

は幾年文隆、本師は卍享。嘉永七年(一八五四)七月二十九日より富山県新川郡広竜村の最勝寺の仏山について修学した。永松寺在住中に本堂の再建事業に尽瘁した。明治三十二年二月二十二日に六十一歳で示寂した。(『永松寺略年表』)

てらおかーえいが 寺岡英雅

ー昭和五十三年(一九七八)

尾道市向上寺二十世、庄原市雲龍寺。号は泰然。広島県庄原市に生まれる。教区長、特派布教師を務める。昭和五十二年三月二十日に示寂した。

てらぐちーりょうち 寺口良知

明治六年(一八七三)ー昭和三十六年

(二九六一)

長野県南安曇郡宗得寺十六世。号は大道。明治六年六月三十日に長野県北安曇郡常盤村に父藤巻彌藤太と母みよの三男として生まれる。受業師、本師は寺口良道。明治二十二年(一八八九)二月に長野県第二号曹洞宗専門支校に入学し第二級を修了。二十

五年九月には東京曹洞宗中宗林に入学し、三十年七月に曹洞宗高等中宗林を卒業。三十一年九月に曹洞宗大学林に入学して卒業した。三十三年四月には曹洞宗第四中宗林教師となり、三十五年八月二十七日に曹洞宗第一中宗林助教授、三十七年三月七日に曹洞宗寺院等級査定会書記に任命される。八月二十五日には曹洞宗第三中宗林助教授となり、一年間務めた。四十四年九月には曹洞宗第三中宗林教授に任命されている。大正六年(一九一七)四月一日には長野県第七曹洞宗務所管内布教部布教師、昭和四年(一九二九)一月十五日には長野県第一曹洞宗務所臨時第九教区長事務取扱、十二年四月に長野県方面委員を嘱託され、十二年二月二十三日には司法保護委員、十四年、十五年には人事調停委員に選任された。三十六年三月十八日に示寂している。(『曹洞宗名鑑』『穂高山宗徳寺』)

てらさわーらいによ 寺左雷如

一 明治三十七年(一九〇四)

浜田市禅床院十四世、浜田市寿昌寺五世、

浜田市訂心寺二十四世。号は黙音。明治十四年(一八八一)に禅床院の堂宇を再造した。三十七年一月二日に四十九歳で示寂した。

てらさきーえつじょう 寺崎悦成

一 明治三十一年(一八九八)

天草市東明寺十六世。号は功運。明治十五年(一八八二)に東明寺の諸堂を修覆し江湖会を営んでいる。三十一年三月十九日に示寂した。(『明教新誌』第一三四一号)

てらさわーこうどう 寺澤好道

明治四十三年(一九一〇)一 平成八年

(一九九六)

佐賀県杵島郡長栄寺、唐津市医王寺四十四世。号は融巖。明治四十三年六月十四日に佐賀県唐津市鬼塚町山本に生まれる。受業師、本師は寺澤融洞。昭和九年(一九三

日)に八十七歳で示寂した。(『洞門龍象要覧』)

てらさわーゆうぜい 寺澤雄瑞

一 大正十二年(一九二三)

千曲市普携寺二十世。号は祥山。更埴市小船山に生まれる。本師は雄輝。大正十二年三月二十七日に示寂した。

てらさわーゆうぜん 寺澤融禪

安政四年(一八五七)一 大正十年(一九

二一)

唐津市医王寺三十八世、唐津市長巖寺十五世、唐津市心月寺十六世。号は雪岳。受業師、本師は桃嶺融山。佐賀県曹洞宗地方布教部委員長を務めた。大正十年八月二十二日に六十四歳で示寂した。(『現代仏教家人名辞典』)

てらさわーゆうどう 寺澤融洞

明治五年(一八七二)一 昭和十二年(一

九三七)

唐津市心月寺十七世、唐津市長巖寺十六

法保護司などを務めた。平成八年十一月三

世、唐津市医王寺三十九世。号は大仙。明治五年十月二十九日に佐賀県東松浦郡鬼塚村山本の見汐勘平の次男として生まれる。

受業師、本師は寺澤融禪、鷹林冷生に参随している。明治二十四年(一八九一)から二十六年まで永平寺に安居し三十四年に曹洞宗大学院を卒業した。管内布教師として宗内公共の事業に従事し、昭和十二年四月二日に六十五歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』)

てらじーこうりゆう 寺司興隆

明治十二年(一八七九)ー昭和三十五年(一九六〇)

三次市正願寺十七世。号は泰巖。明治十二年九月十一日に広島県甲奴郡田総村田房の山口茂七の長男として生まれた。本師は寺司泰麟。明治三十二年(一九一九)に尾道中学校を卒業し、四十年に駒澤大学卒業、四十二年に教導講習院を卒業した。管内布教師に任命され、地方布教に務めた。昭和三十五年六月十三日に示寂した。(『曹洞宗名鑑』)

てらしまーいりゆう 寺島懿龍

安政四年(一八五七)ー明治四十年(一九〇七)

福島市龍鳳寺二十二世。号は宏海。安政四年四月十日に岩代国信夫郡福島町浜辺字宿七番地の武田通外の次男として生まれる。受業師、本師は寺島悦堂。明治五年(一八七二)から十五年三月十日まで岩代国伊達郡深川町興国寺の新井如禪に随侍し、十一年一月より福島県曹洞宗中院にて修学した。四十年十月十日に五十一歳で示寂した。

てらしまーしょうけん 寺島精顕

明治三十三年(一九〇〇)ー平成十年(一九九八)

飛弾市徳翁寺十七世。号は一行。明治三十三年二月十二日に富山県黒部市三日市に生まれる。本師は土井積善。總持寺に安居した後、管内布教師、軍人布教師、教区長などを務めた。その他、方面委員、民生委員、神岡町町議会議員、議長、保護司、公民館長、消防団分団後援会長なども務めて

いる。平成十年二月十四日に享年九十九歳で示寂した。(『洞門龍象要覧』、『曹洞宗現勢要覧』)

てらだーゆうぜん 寺田有全

明治十三年(一八八〇)ー昭和十八年(一九四三)

白河市関川寺四十四世、磐田市全久院二世、八王子市清鏡寺三十世。号は大菴、湘南。尾州藩の江場規友の次男として名古屋に生まれる。受業師、本師は寺田孝道。

明治三十九年(一九〇六)に曹洞宗大学院を卒業した後、豪徳寺、青松寺の各僧堂を担任し、佐藤鉄額、北野元峰に鉗鎚を受けし、京城別院で布教総監を補佐する。満洲布教師となり、旅順布教所に駐在し開教の発展に尽した。昭和十八年十月八日に示寂している。(『曹洞宗名鑑』、『現代仏教家人名辞典』)

てらむらーせんみょう 寺邑仙苗

安政六年(一八五九)ー昭和三年(一九

二八)

男鹿市大龍寺三十四世。号は祖田。秋田県仙北郡内小友村の寺邑玄順の次男として生まれる。受業師、本師は柏崎仙龍。明治六年(一八七三)十一月二日より秋田市鱗勝院の清岳智童に、十一年八月一日より二十年十月十五日まで金沢市天徳院の森田悟由に隨身する。昭和三年一月二十九日に示寂した。(大龍寺世代年譜)

てらもとーけんずい 寺本賢瑞

万延元年(一八六〇)ー大正五年(一九一六)

一宮市常清寺二十二世、あま市玉泉寺八世。号は徳庵。万延元年九月八日に愛知県海東郡井和村大字川部に寺本新助の四男として生まれる。受業師、本師は大圓宗賢。明治九年(一八七六)八月より十三年三月まで名古屋市安齋院の野々部至遊に随侍、十三年四月より十五年三月まで愛知県曹洞宗第一号宗務支局附属専門支校五級を卒業、十五年四月より十八年七月まで再び野々部至遊に隨身した。曹洞宗地方布教部

委員長を務めて、大正五年六月八日に五十六歳で示寂した。(『現代仏教家人名辞典』)

てらゐーしんきょう 照井真鏡

明治二十八年(一八九五)ー昭和三十八年(一九六三)

東大阪市普明寺二世、奈良県吉野郡巖泉寺二十八世。号は大覚。明治二十八年九月二十七日に秋田県横手市の照井作右衛門の三男として生まれる。受業師、本師は照井全鏡。秦慧昭に参随する。明治四十三年三月に秋田県平鹿郡旭村の尋常高等小学校高等科卒業、四十四年八月から大正三年(一九一四)四月まで總持寺、三年五月から六年九月まで永平寺、九年三月から十四年七月まで神戸市福昌寺般若林僧堂に安居する。昭和七年(一九三二)七月には曹洞宗布教部、八年十月に大阪府社会教化委員、十年一月から少年保護司、十四年十一月に司法保護委員、二十二年に曹洞宗大阪府宗務所長を務める。三十八年四月十七日に六十九歳で示寂した。

てらゐーぶんりょう 照井文亮

明治二十八年(一八九五)ー昭和四十九年(一九七四)

市川市総寧寺五十五世。明治二十八年三月二十八日に秋田県平鹿郡黒川村に生まれる。号は祖室。本師は鱗原泰全。可睡斎、西有寺、總持寺に安居した。本師の総寧寺再興を助け、特派市教師、總持寺布教師、宗務院主事、宗務所長、總持寺顧問。その他、人權擁護委員、保護司会長などを務めた。昭和四十九年十一月十二日に世寿八十歳で示寂した。

の

のせーにんりゅう 能世忍隆

明治九年(一八七六)ー昭和四十年(一九六五)

福井市崇福寺。明治九年四月四日に福井市東日之出中町に生まれる。本師は秀山玉英。福井市孝顯寺、永平寺に安居する。日

露戦争傷痍の身で崇福寺に住職され、本堂や庫裏をそれぞれ二回に亘って再建し、大正元年（一九一三）より十年間は永平寺役寮として典座、知客などを歴任した。昭和四十年二月十九日に九十一歳で示寂した。（「傘松」二九三号）

のうにんーぎどう 能仁義道

天保十四年（一八四三）―大正六年（一九一七）

大津市青龍寺、倉敷市円通寺、大町市大沢寺三十八世、福井県三方上中郡大蔵寺伝法開山、大阪市鳳林寺二十六世。号は元孝。

天保十四年十月五日に能登国鳳至郡櫛比村字門前の酒井嘉平の次男として生まれる。受業師は橋仙、本師は魁澤重。總持寺に五年間安居。文久四年（一八六四）より本巢市智勝院の観牛に参禅、元治二年（一八六五）には比叡山の大宝律師に華嚴、天台学を学ぶ。明治六年（一八七三）五月に青龍寺に住職し、十六年七月に円通寺へ、二十六年七月に大沢寺へ、三十四年十一月に鳳林寺へ転住する。明治七年には滋賀県教導

職取締を務め、備中、大阪でも教導取締を務めた。十六年より總持寺副監院、三十六年に總持寺後堂、四十年には永平寺貫首禅師御親化随行長を命ぜられた。曹洞宗宗議会議員、両山布教師を務め、岡山県において未就学生のために慈恵学校を設け、児童教育にも努めた。『永平家訓』『宝慶記摘葉』『僧訓日記』『尋枝録』『十規論冠註』『絵入父母の恩』などの編著があり、大正六年七月二十日に示寂した。（曹洞宗名鑑）『現代仏教家人名辞典』『洞門二十五哲』

のうにんーしゅうがん 能仁秀嵩
天保九年（一八三八）―明治四十四年（一九一七）

西予市龍沢寺四十四世、大洲市長命寺十三世、西予市宝泉寺、高知県高岡郡吉祥寺勸請開山。号は富禅。天保九年に広島県安芸国沼田郡境町の松本八三の八男に生まれる。弘化三年（一八四六）二月十日に得度したが、受業師は不詳。本師は能仁泰巖。安政三年（一八五六）に近江国犬上郡彦根

敷下の久昌寺において修学、明治四十二年（一九〇九）には西予市宝泉寺へ退休した。明治四十四年八月七日に七十四歳で示寂した。

のうにんーしゅんがん 能仁俊巖

―明治二十八年（一八九五）

西予市龍沢寺四十二世、愛媛県北宇和郡善光寺、西予市高安寺十一世。号は俊巖、諱は玄英。受業師、本師は泰巖玄彰。明治十四年（一八八一）に第二次末派総代会議に列席し、二十二年には曹洞宗宗議会議員に当選して第三次曹洞宗宗議会議に列席した。龍澤寺において『永平清規』『学道用心集』『参同契』『宝鏡三昧』などを講じており、語録に『龍門余瀾』がある。明治二十八年六月二十九日に示寂した。（『明教新誌』第一九一八号）

のうにんーたいがん 能仁泰巖

―明治十二年（一八七九）

西予市高安寺九世、西予市龍沢寺四十一世、西予市誓願寺四世。号は玄彰。文化九

年(一八一二)四月八日に誓願寺で得度、
文政三年(一八二〇)、東京都吉祥寺で修
学し、天保元年(一八三〇)八月二十一日
に高安寺に任職した。十年三月二十日に龍
沢寺に転住しており、明治四年(一八七
一)十月より龍沢寺所有地に租税を課し、
さらに年々稟米七十俵宛を交付されること
になり、八年には愛媛県権令より社寺所有
の田畑の買得などにつき、処置方が布告通
達される。なお、これによって泰巖は、寄
進を受けた荒地が住職個人の開墾による理
由で田畑の払下げを受け、泰巖の所有地と
して地券交付を受け中雀門、龍門橋、蓮池
などを造営して大伽藍の礎を築いた。明治
十二年四月には授戒会を修行し、戒弟は七
五二名を数えた。九月十六日に七十六歳で
示寂した。(『明教新誌』第八〇九号)

のうにんーだいりゆう 能仁大隆

天保十四年(一八四三)ー明治三十六年

(一九〇三)

北九州市禅覚寺十世、福岡県糟屋郡梅岳寺
十七世。号は豊屋。天保十四年に福岡県遠

賀郡脇田浦の楠快秀の四男として生まれ
る。受業師、本師は鶴峰大仙。出家して能
仁と改姓した。示寂後の昭和十一年九月二
十八日に楠姓への復姓が許可されている。
明治三十六年二月八日に六十歳で示寂し
た。(『過去帳の世代記』『楠家系図』)

のうにんーてんがん 能仁天巖

ー明治四十三年(一九一〇)

西予市安楽寺十五世、愛媛県北宇和郡善光
寺十九世。号は孝寛。山口県長門国豊東郡
の柳原新平の三男として生まれる。弘化四
年(一八四〇)八月五日に西予市の龍沢寺
で得度し、嘉永四年(一八五二)には妙応
寺に修学し、万延元年(一八六〇)八月十
九日に善光寺に入寺して明治三年(一八七
〇)八月二十八日に安楽寺へ転住した。四
十三年二月二十三日に七十三歳で示寂し
た。

のうにんーてんぜん 能仁天然

ー明治三十二年(一八九九)

西予市龍澤寺四十三世、西予市報恩寺。号

は知道。山口県大嶋郡沖家室の柳原久右エ
門の二男として生まれる。俗姓を柳原と
いったが能仁に改姓する。嘉永五年(一八
五二)二月十五日に龍澤寺で得度し、万延
元年(一八六〇)、愛知県愛知郡香掛村の
聖応寺で修学した。明治八年(一八七五)

五月に報恩寺の裏長屋を北川小学校として
授業を担当、九年九月には正式に北川小学
校授業生に任命された。十九年四月には校
舎建築の起工を行った後、二十四年四月に
竣工した。三十二年旧四月二十一日に五十
五歳で示寂した。(『城川町土居郷土誌』)

のうにんーはくがん 能仁柏巖

ー明治十五年(一八八二)

神戸市西教寺六世、神戸市八王寺三世、神
戸市満福寺、神戸市三宝院、神戸市禅昌寺
の各開山。号は伝苗。本師は覚巖実明。安
政五年(一八五八)に八王寺に入寺し、明
治元年(一八六八)には有栖川宮家の祈願
所となり、常恒会地に昇格させた。廃仏毀
釈の中で、正法興隆、鎮護国家の説を主張
し、兵庫県下曹洞宗中教院の教導職取締兼

講長、第二次末派総代議員を務めた。著書に『曹洞宗問題十説』『福昌寺覚巖実明禅師年譜』『霧海南針』などがあり、十五年十月二十日に示寂した。

のがみーたいぐ 野上太恵

一 明治三十四年(一九〇二)

竹田市豊音寺十八世、豊後大野市天徳寺十二世。号は志学。大分県直入郡豊岡村坂折の神職野上遠江の二男に生まれる。受業師、本師は法雲天眼。總持寺に安居。天徳寺より明治十二年(二八七九)九月二十四日に豊音寺に転住し、二十六年まで務めた。三十四年十一月二十五日に七十三歳で示寂した。

のがちーれんしょう 野口蓮生

明治六年(一八七三)一昭和四十四年

(二九六九)

東京都海雲寺二十二世、東京都正山寺三十八世。号は高雲。明治六年三月二十一日に熊本県八代郡岡谷川村の野口家の三男として生まれる。受業師は菩提泰禅、本師は横

川得諄。紅谷庵の渡辺実雄に参随した。明治二十三年(一八九〇)より二十七年まで

永平寺に安居し、三十五年には曹洞宗大学林を卒業、三十六年に教導講習院を卒業、三十二年に正山寺に住職し本師を補佐した。

三十九年に東京都了真寺、昭和十四年(一九三九)には東京都耕雲軒(寺)、長野県

下高井郡広業寺、二十二年には横浜市東泉寺なども兼務する。管内布教師、教区長、

宗務所参与、宗会議員、世田谷中学建築委員、宗務院建築委員、永平寺別院副監院、

永平寺顧問を務める。また、火の番令、警視庁巡査、国民向上会理事、仏教広済会理

事、仏教護団監事、司法保護委員、民生委員、品川仏教会々長なども務めた。昭和四

十四年十二月十七日に九十六歳で示寂した。(『米寿歴』『我等の生活と仏教』『曹洞

宗名鑑』『洞門龍象要覧』『曹洞宗現勢要覧』)

のざわーたつげん 野澤達玄

慶応二年(一八六六)一 大正十四年(一

九二五)

伊豆の国市蔵春院四十世、鴨川市長安寺、

三島市常林寺十七世。号は路孝。慶応二年八月十二日に三島市新谷の武井万作の三男に生まれる。受業師、本師は野澤稚道。古知知常、折居光輪に参随する。明治二十四

年(一八九一)三月曹洞宗大学林を卒業し、宗務所長、布教部委員長を務めた。龍

拈寺認可僧堂の准師家も務め、大正十四年六月二十六日に六十歳で示寂した。(『曹洞

宗名鑑』『蔵春院歴住世代帳』)

のざわーちどう 野澤稚道

一 明治二十四年(二八九一)

伊豆の国市蔵春院三十六世、伊豆の国市長伝院開山、三島市宝光寺開山。号は大鳳。

明治十三年(一八九〇)四月三、四日に承陽大師の諡号報恩講式を修行して随喜僧衆

三十名、信徒二百余員に施齋した。二十四年二月二十三日に示寂した。(『明教新誌』第九七八号)

のじまーたいぜん 野島泰禅

天保七年(一八三六)一 大正三年(一九

一四)

越谷市浄山寺二十三世。号は祖芳。受業師は天山珉宗、本師は野島泰宗。天保七年二月一日に東京府下谷収和町の桑野三吉の長男として生まれる。明治十年(一八七七)に埼玉県第一号曹洞宗務支局専門学課四級を卒業し、「當山檀籍簿」を作製した。大正二年二月六日に七十七歳で示寂した。

のだーえじゅん 野田恵順

明治十五年(一八八二)ー昭和二十四年(一九四九)

福島県伊達郡頭陀寺三十三世、福島県伊達郡玉泉寺二十六世、福島県伊達郡金松寺。号は孝道。明治十五年四月十七日に福島県二本松市の丹羽伝十郎の六男に生まれ、野田天真の養子となる。受業師、本師は野田天真。福島県白山寺、仙台市昌伝庵、福島県大隣寺、永平寺などに安居した。昭和二年(一九二七)に石垣築造、五年に本堂屋根替、六年に庫裡を新築、七年に会館新築、十年に山門屋根替、二十一年に電灯敷設、二十二年に参道整地、二十三年に墓地

造成、後醍醐天皇六百回大遠忌法要焼香師、司法保護常務委員などを務めた。二十四年九月六日に六十八歳で示寂した。〔二本松市史〕

のだーせんえい 野田仙英

一 大正十五年(一九二六)

松江市本覚寺四世、雲南市久円寺。号は祖嶽。福岡県小倉に生まれる。明治三十年(一八九七)より三十三年まで本山で修学し、大正十五年六月二十二日に四十七歳で示寂した。

のだーせんえい 野田仙英

明治七年(一八七四)ー昭和二十三年(一九四八)

国東市慈雲寺十一世。号は育道。明治七年に生まれる。明治三十四年(一九〇一)に曹洞宗大学院を卒業した後、本山僧堂に安居する。両本山布教師及び管内布教師に任命され、道声が高かったが、昭和二十三年一月二日に示寂した。〔曹洞宗名鑑〕

のだーたいほう 野田大法

明治二年(一八六九)ー昭和十一年(一九三六)

串間市如意寺二世、宮崎市善栖寺十三世。明治二年五月十六日に宮崎県東臼杵郡岡富村の黒木重吉の二男として生まれる。受業師、本師は美原研宗。靈松寺の安達達淳の常恒会において立職、明治十七年(一八八四)から専門支校に入り二十一年に卒業した。三十年十月、永平寺において転衣し、翌年には如意寺の住職となった。四十一年九月に善栖寺へ転住して以来、組長、布教部委員などに任命され、宗務布教に尽力した。二十五年に如意寺を再興し、三十年十一月に開院式を修行した。十二月には宮崎郡赤江村の松崎寺の復興に着手している。昭和十一年二月十四日に六十一歳で示寂した。〔曹洞宗名鑑〕

のだーてんしん 野田天真

一 大正六年(一九一七)

福島県伊達郡頭陀寺三十一世、白河市長寿院。号は文洲。鹿児島県の新原保国の四男

として生まれる。受業師は漢山、本師は久林養洲。明治十九年（一八八六）六月に福島県第一号支局副取締、二十三年十月に正取締、第一号支局管内布教師、二十四年二月に第一号小学林監理、二十五年七月に両山協和を護持し宗門の保安を嘱託された。

二十九年に末派総代正員、第二支局監事、三十七年七月に曹洞宗宗議会議員、十二月には曹洞宗末派総代委員、大正元年（一九一〇）四月には福島県各宗合同仏慈善会聯合団長などを務めた。六年五月十五日に六十八歳で示寂した。（『曹洞宗名鑑』）

のだーどうかん 野田道環

慶応三年（一八六七）ー昭和四年（一九二九）

名古屋市宋吉寺十二世、清須市天桂寺十九世、名古屋市桂芳院二十一世、愛知県知多郡乾坤院独住七世、伊豆市最勝院四十五世。号は謙光、晚翠。慶応三年五月一日に愛知県岩倉市に生まれる。受業師、本師は大提為道。碩儒の浅田藤山、奥田大観、市野天籟などに漢籍及び詩文を学び、専門支

校を修了する。白鳥鼎三、野々部至游らに随侍した。安齋院僧堂の准師家を務め、儒と仏と詩と禪とを打して一団となし、中京の教界に頭角を抽いだ。昭和四年二月二日に示寂している。（『曹洞宗名鑑』）

のだーほせん 野田甫先

明治十年（一八七七）ー昭和三十五年（一九六〇）

相馬市新祥寺四十四世、伊達市真徳寺十六世。号は仁山。明治十年十一月十五日に福島県相馬郡飯館村の渡部宏覚の子に生まれる。幼名を政記という。受業師は渡部宏覚、本師は野田天真。曹洞宗大学林を卒業し、長祿寺僧堂の教育を担当して多くの漢詩を作った。昭和三十五年三月二十五日に満八十三歳で示寂した。

のだーもくちゅう 野田黙中

ー明治三十二年（一八九九）

鳥取市中興寺十三世、倉吉市洞光寺十一世、姫路市景福寺、養父市永源寺。号は笑巖。本師は無底黙潭。明治三年（一八七

〇）に中興寺より師席の洞光寺へ、六年には景福寺へ転住、在住十年にして退隠し、丹波篠山の法昌寺に隠棲。二十二年に永源寺へ晋住した。法嗣に日置黙仙がおり、師弟の挨拶などのエピソードがある。三十二年旧十一月五日に示寂した。（『日置黙仙禅師伝』）

のだーどうけん 野出道憲

明治三十七年（一九〇四）ー平成四年（一九九二）

葦崎市蔵前院二十四世。明治三十七年三月十九日に山梨県葦崎市葦崎町に生まれる。本師は鈴木道紀。東洋大学東洋文科を中退、西有寺認可僧堂に安居した。昭和六年（一九三一）に教区長を務め、四十七年に宗議會議員に当選し、その他に県総和会会長、山梨以徳会北巨摩郡副支会長、同支会長、民生委員、町公安委員長、保護司、県保護司会連盟理事なども務めた。平成四年六月二十九日に八十九歳で示寂した。

のべーしゆう 野々部至游

天保十一年(一八四〇)―明治四十三年

(二九一〇)

長野県下伊那郡淵静寺。名古屋市安斎院七世、東京都豪徳寺三十一世、名古屋市長全寺七世、清須市高照寺開山。号は徳宗。天保十一年(一八四〇)十月十五日に愛知県葉栗郡後飛保村に生まれる。受業師は洞霊、本師は大仁義件。月潭全龍や西有穆山などに参随し、『正法眼蔵』を参究した。

愛知県第一号専門支校教師、曹洞宗特選議員、永平寺後堂、眼蔵会講師、曹洞宗大学林教頭なども務めた。著作には『冠註傍解信施論』、『禅宗綱要』、『説教賛題・温故集』などがある。明治四十三年十一月二日に七十歳で示寂した。(『明教新誌』第四二四六号、「傘松」第四八九号)

のぶゆきーしろうどう 信行祥童

―明治三十六年(一九〇三)

宗像市室生寺二十一世。号は牧牛。長崎県南高来郡西有家町龍石の藤木家に生まれる。受業師、本師は信行江賢。明治三十六

年十一月二十四日に示寂した。

のぶゆきーりようかい 信行良海

明治十六年(一八八三)―昭和二十八年

(一九五三)

宗像市室生寺二十二世。号は祥岳。明治十六年五月三十一日に生まれる。受業師、本師は信行祥童。高階瓊仙、弘津説三、松浦百英に参随する。明治三十七年(一九〇

四)に曹洞宗第四中学林を卒業し、同年十二月二日に室生寺二十二世に就く。大正元年(一九一三)に福岡県第二宗務所布教師に任命され、九年春、両大本山布教師として鹿児島、宮崎、大分の三県を巡回布教する。同年四月、福岡県第二宗務所管内布教師に任命され、十年、東京宗務院にて開催された臨時教導講習生に選抜され、次いで各宗聯合会の講習会、各宗布教師大会に宗門の推薦により列席する。十三年福岡県第二宗務所長に就く。十四年に両大本山布教師に任命され島根県を巡教する。昭和三年(一九二八)春、両大本山布教師に任命され、広島県、山口県を巡教し、十二年春に

は両大本山特派布教師として島根県石見地方一円を巡教する。十三年宗像各宗仏教聯合会を結成し初代会長となる。二十八年三月二十七日に七十歳で示寂した。(『過去帳』備忘記)

のむらーどうえい 野村道栄

明治三十六年(一九〇三)―平成五年

(一九九三)

福井市乗国寺二十三世、福井市泰清院三十二世、武生市楞嚴寺八世、福井市国昌寺三十七世。号は祖岳。明治三十六年九月二十日に福井市麻生津の近藤家に生まれる。本師は仏山喚道。福井県祖門会会長などを長く歴任し、福井県の重鎮であった。平成五年十一月十三日に八十二歳で示寂した。(『傘松』第六〇三号)

のりーどうけん 則道謙

弘化二年(一八四五)―大正十四年(一九二五)

大田原市洞泉院二十四世、小浜市禅応寺、福井県大飯郡性山寺。号は蔵鋒。弘化二年

(二八四五) 四月十五日に名古屋市の吉田忠助の二男として生まれる。受業師は泰山雄道、本師は雪巖棟門。文久三年(一八六三)より明治六年まで梅崖奕堂や長森良範、清鑑法などに参随する。瑞龍寺僧堂に安居する。栃木県支局副取締、監事、管内布教師、両本山布教師などを務める。免囚保護会を設立し、常に三十名程を保護していた。大正十四年三月十八日に八十一歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』)

のりやまーしんぎゅう 法山真牛

一明治四十年(一九〇七)

福井市国昌寺三十二世。号は法山。福井市つくもの永春寺檀徒の法山家に生まれる。本師は祖明大琳。明治十二年(一八七九)七月、近火によって鎮守金毘羅堂、本堂などを類焼、その修繕が完成したことから慶讃法要が翌年十月に行われた。十六年には栖川興巖の編輯した「法界一仏辨疑」を銅版刷によって施与している。明治四十年五月二日に示寂した。(『明教新誌』第一〇五六号、第一四八二号)

へん

べつしよーりゅうじょう 別所龍城

明治三十四年(一九〇一)一昭和四十八

年(一九七三)

宇佐市大泉寺二十五世。明治三十四年九月一日に佐賀市松原町三十三番地に生まれる。本師は長山黄龍。昭和三年(一九二八)駒澤大学専門部仏教科別科を卒業し、宗務所賛事、教区長、朝鮮布教総監部主事、京城別院駐在布教師、同別院専門僧堂講師、教学部庶務部主事、振興会常務理事、宗務所長、宗議会議員、教育、庶務の各部長、管長待局長などを務めた。四十八年五月六日に七十二歳で示寂した。

へんみーちじょう 逸見智成

昭和元年(一九二六)一昭和五十二年

(一九七七)

瑞浪市増福寺、岩倉市龍潭寺三十五世。昭和元年十二月二十六日に岐阜県瑞浪市日吉町に生まれる。本師は逸見智勇。永平寺本

山僧堂に安居。岐阜県宗務所副所長、梅花流特派師範、海外特派布教師、海外特派師範、市社会教育委員などを務めた。昭和五十二年一月十五日に世寿五十歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』)

へんみーちゆう 逸見智勇

明治二十七年(二八九四)一昭和三十九

年(一九六四)

瑞浪市開元院。明治二十七年七月二十二日に岐阜県土岐郡日吉村に生まれる。本師は逸見智洞。最乗寺、妙巖寺、永平寺の各僧堂に安居。工場、地方、管内各布教師、開元院専門僧堂々々長、同師家、宗務所長、県教育委員、社会教育委員、方面委員などを務めた。昭和三十九年六月二十九日に示寂した。(『洞門龍象要覧』)

へんみーばいはい 逸見梅栄

明治二十四年(二八九一)一昭和五十二

年(一九七七)

山形県西村山郡東林寺。山形県西村山郡谷地町に生まれる。本師は逸見智洞。大正六

年に東京帝国大学梵文科を卒業し、曹洞宗海外留学生として印度に滞在する。仏教美術梵語考古学を究め、梅檀学園校長、駒澤大学教授、立正大学講師、鶴見大学講師、高野山大学教授も務めた。昭和五十二年十一月十四日に八十六歳で示寂した。(『洞門龍象要覧』、「跳龍」三五四号)

へんみりゆうどう 逸見隆道

嘉永六年(一八五三)ー

埼玉県秩父郡光源院二十二世。号は大應。嘉永六年に福井県丹生郡太田新保村の逸見豊吉の二男に生まれる。本師は鉄印真牛。明治十八年(一八八五)より大正十三年(一九二四)までの二十八年間、甲源一刀流菩提寺の萬松寺や光源院、徳栄寺に住持した。(『萬松山光源院由緒適遥記』)

む

むかえだーしゅんゆう 迎田俊雄

明治三十六年(一九〇三)ー昭和四十一年(一九六六)

山形県西置賜郡永泉寺三十一世。山形県西置賜郡鮎貝村里鴨に生まれる。駒澤大学仏教学科を卒業する。管内布教師、特派布教師、教学審議会委員長、東根村長、村農業会長、郡仏教連合会長、白鷹町長などを務めた。著書は『久遠への郷愁』『行の真理』がある。昭和四十一年八月二十一日に示寂した。(『洞門龍象要覧』)

むくはらーかいぜん 無垢原快禅

ー明治十一年(一八七八)

佐賀市龍泰寺三十世、佐賀市妙安寺二世、鳥羽市常安寺二十六世、鳥羽市極楽寺開山。号は南國(谷)(穀)。本師は蘿溪月菴。明治十一年三月三十一日に示寂した。(『歴住世代帳』『講田法系攷』『天桂禪師靈楠陽松庵史』)

むとうーそざん 武藤祖山

明治八年(一八七五)ー昭和九年(一九三四)

長野県下伊那郡慈恩院十九世。号は太雲。明治八年七月二日に長野県下伊那郡飯田町に生まれる。受業師は知山祖道、本師は清水巨海。明治二十三年(一八九〇)に郷里の中学科を卒業し、二十八年四月より名古屋安齋院の野々部至游に随侍した。三十一年に名古屋の中学校を卒業し、同年九月に哲学館大学仏教専修科に入学し、三十三年七月に卒業した。三十五年慈恩院に住職し、寺門興隆と布教伝道に努めた。昭和九年八月十九日に示寂した。(『曹洞宗名鑑』)

むとうーりゆうせい 武藤隆清

大正三年(一九一四)ー平成五年(一九九三)

名古屋市修善寺九世。号は徳昌。大正三年三月九日に福島県田村郡大越町の長源寺に生まれる。本師は武藤悦翁。仏教専修学校専門部を卒業し、布教研修所、師家養成所に入る。長祿寺認可禅林、久国寺専門僧

堂、總持寺僧堂に安居した。宗務庁秘書課主事、同教化主事、教区長、仏教専修学校教授、久国寺専門僧堂監事、同准師家、青少年教化員、管内布教師、特殊布教師、總持寺布教部長などを務め、その他に名古屋中国民動員署少年補導員、同指導官、民生委員、名古屋市民職業指導所少年補導員、名古屋市北区仏教会長、愛知県職業補導館勤務少年指導官、名古屋拘留所教誨師なども務めた。平成五年十二月六日に示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』)

むねかたーゆいいつ 棟方唯一

明治四年(一八七二)ー昭和十八年(一九四三)

大仙市大川寺三十一世、五所川原市龍泉寺二十一世、弘前市宗徳寺二十八世、弘前市耕春院三十二世。明治四年九月二十五日に青森県北津軽郡五所川原村の宮本源吉の二男として生まれる。受業師、本師は棟方玉応。弘前専門支校に入学した後、東京曹洞宗中学校に転校し、明治三十四年(一九〇一)に曹洞宗大学林を卒業、翌年に曹洞宗

教導講習院に学ぶ。耕春院と本寺の宗徳寺の復興を図り、宗徳寺を石川県金沢より移転し、本堂などの伽藍や鐘樓門の復興を托鉢などによって行う。宗徳寺に青森慈晃会を創設し、自らも教誨師として囚人の更生に尽くす。曹洞宗宗会議員、曹洞宗大学学監などを務め、宗門の維持興隆と宗侶の教育に貢献した。大正十三年(一九二四)五月に梅檀中学が再度の火災にあい、校舎の再建や移転にあたり、その前後処理に辛苦を重ねた。『曹洞宗布教選書』第六巻に「本証妙修」「不殺生戒」についての講演文がある。昭和十八年一月十八日に七十二歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』)

むねさわーぶんざん 宗澤文山

文久元年(一八六一)ー昭和六年(一九三一)

川崎市安楽寺二十九世、川崎市清浄庵開山。号は太玄。文久元年九月三日に神奈川県川崎市中原区下小田中の鹿島七五郎の二男として生まれる。受業師、本師は宗澤祖

傳。明治八年(一八七五)、曹洞宗専門本校に入学し、同時に神田検数学館にて数学を専攻。十七年、曹洞宗専門支校を卒業し、同年には同校学監兼数学教師に就任した。明治二十一年には、神奈川県川崎市中原区小田中に時習学校を創立し、四十一年に曹洞宗第一宗務支所長に就任し、昭和六年一月四日に七十一歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』「かわさき」第三十七号)

むらいーしゅうちよう 村井秀麿

ー昭和三十七年(一九六二)

盛岡市東頭寺二十八世。号は徹心。盛岡市本町の村井家に生まれる。受業師、本師は卓然独立。岩手師範学校を卒業し、總持寺に安居する。その後、岩手県宗務所長、五日市小学校校長、川目小学校校長などを務めた。昭和三十七年七月二十九日に六十八歳で示寂した。(『洞門龍象要覧』)

むらいーばいおう 村井梅黄

ー大正四年(一九一五)

新潟県西蒲原郡本高寺二十五世。号は嶺

南。新潟県西蒲原郡岩室村岩室の村井栄助の子に生まれる。本師は菜応丹山。大正二年(一九一三)に本高寺を現在地へ移転した功労者で中興となっている。大正四年十一月二十二日に五十六歳で示寂した。

むらかみーいちゆう 村上二雄

明治十二年(一八七九)ー昭和十三年(一九三八)

三原市雙照院十四世、広島市聖光寺二十六世。号は良音。雅号を一笑、俳号を珠月と称した。明治十二年十二月十一日に三原市田野浦町の村上ナヲの長男として生まれる。受業師、本師は田坂大雄。岸月潭、西沢仏海、西野石梁に参随した。明治二十六年(一九一三)、国泰寺に安居し、二十七年に興聖寺に安居。三十三年に曹洞宗関西中学林を卒業する。三十八年に總持寺大遠忌焼香師、大正元年(一九一三)に広島県第一宗務所管内布教師、七年に広島県第一宗務所長、十年に特派両山布教師、十五年に巡回両山布教師、昭和七年(一九三二)には曹洞宗布教師を務める。画は山

水、観音、花鳥、人物を得意とし、日本画壇において活躍した。三原市に群仙会、広島市に広陵南画会を組織し同好の士と交わる。その他、和歌、俳句、俳画、茶道などにも親しみ、十三年十二月八日に五十九歳で示寂した。(記念遺作展一笑道人生誕百年)

むらかみーかんぜん 村上貫禪

明治十年(一八七七)ー昭和三十七年(一九六二)

津島市正泉寺十八世、あま市広済寺三十世。号は祖室。明治十年五月十八日に愛知県知多郡河和町に生まれる。本師は佐藤祖関。僧堂修学十六年、昭和二年(一九一七)には宗務所会議員、高祖大師御忌法要焼香師、十一年に宗務所長、永平寺准副監院、宗務所顧問となる。七宝村仏教会長、社会教育委員、各宗連合郡仏教会長、七宝村仏教会最高顧問、七宝村遺友会援護指導委員長などを務める。二十五年には七宝村各宗連合仏教会終身名誉会長となる。昭和三十七年十二月二十七日に示寂した。(曹

洞宗現勢要覽)

むらかみーがんりゆう 村上頑龍

明治十八年(一八八五)ー昭和二十九年(一九五四)

大野市曹源寺三十三世、大野市宝慶寺五十一世、福井市鎮徳寺二十世。号は活水。明治十八年六月五日に大野市麻生島の前田家に生まれる。受業師、本師は村上(赤梢)龍鱗。曹洞宗大学林を卒業する。福井県宗務所長、地区民生委員、孝顕寺専門僧堂准師家、第九専門僧堂准師家堂監、高階龍仙、能沢泰禪の永平寺祝国開堂の白槌師、永平寺本山顧問、高祖大師七百回大遠忌顧問、高祖大師御遺誠御宣読師を務め、宗外においては方面委員、東部常務委員、県少年教護委員、旭教育会理事、司法保護委員などを務めた。昭和二十九年九月三日に七十歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覽』、「傘松」第四五三号)

むらかみーこうどう 村上孔堂

明治二十五年(一八九二)ー昭和三十五

年(一九六〇)

角田市東禅寺二十三世。明治二十五年三月七日に角田市枝野の村上南領の長男に生まれる。受業師は村上南領、本師は山下曹源。大正八年(一九一九)三月に曹洞宗大学を卒業し、九年三月より十一年七月まで總持寺に安居。その後、朝日新聞社に勤務し、盛岡支局や浦和支局などを歩いた。退職後は東京に在住し、住職としての活動はなかったといわれている。昭和三十五年六月七日に六十八歳で示寂した。

むらかみーごどう 村上悟道

一昭和二年(一九二七)

南丹市放光寺、京都府船井郡龍心寺十九世。号は黙静。兵庫県明石郡平野村字常本の戸田氏の二男に生まれる。明治十五年(二八八二)三月四日に放光寺より龍心寺に転住した後、大正十五年三月十九日に退隠した。昭和二年三月二日に八十六歳で示寂した。

むらかみーじゅうこう 村上重光

明治十八年(一八八五)一昭和四十六年(一九七一)

西予市顕手院、西予市西岸寺十五世。号は瑩堂。明治十八年五月十五日に生まれる。本師は村上即十。明治四十一年(一九六六)に第一中学林を、四十五年(一九七〇)に第一中学林を、四十五年(一九七〇)に東洋大学を卒業した。同年に朝鮮布教師補となり、大正四年(一九一五)に顕手院に住職し、十四年には西岸寺へ転住した。愛媛県小学校教員、村長、村会議員、産業組合長、森林組合長なども務めた。昭和四十六年十二月七日に八十七歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』)

むらかみーぜんとう 村上禅透

一 大正十三年(一九二四)

村上市満願寺十五世。号は仏巖。福井県今立郡味真野村字上大坪の村上伊之助の弟として生まれる。本師は押野太寿。大正十三年五月六日に五十一歳で示寂した。

むらかみーそどう 村上素道

明治八年(一八七五)一昭和三十九年(一九六四)

長崎市皓台寺二十九世、京都市永興寺四世、菊池市聖護寺中興開山。号は大心。明治八年九月十四日に名古屋市熱田の村上兵三郎の長男として生まれる。受業師は祖学徹道。霖玉仙、西有穆山に参随した。明治二十三年(一八九〇)に熱田白鳥学校を卒業し、常滑市の桂巖寺の祖学徹道について出家した。二十八年に齊年寺の結制で首座を務め、三十年に比叡山へ上り、岩佐普潤について天台教学を学ぶ。四十二年には臥牛の着手した道元禅師御茶毘所の旧跡顕彰を受け継ぎ、獅ヶヶ谷に御霊場を開基した。大正七年(一九一八)には桂林寺の三沢啓明を西堂に拝請し、結制を設けて法幢を建てた。十年十一月には中国へ渡り湖南省南嶽に石頭希遷の旧跡など禅宗諸師の跡を訪ねた。十一年には霖玉仙の招請によって皓台寺僧堂の後堂に就任した。昭和二年(一九二七)には『蓮月尼全集』を上梓し、三年には永平二祖国師六百五十回忌に

因んで『永平二祖孤雲懷辨禪師』を出版した。六年十二月四日には皓台寺二十九世に

晋住し、八年には菊池氏に関する古文書を

展覧し、菊池氏の顕彰に努めた。また、菊

池氏の帰依を受けた大智禪師の旧跡(風儀

山聖護寺)の復興を志し、十七年一月に皓

台寺を退いて菊池市の聖護寺に移り、十九

年には本堂、庫裡などを上棟した。著作は

その他に『曩祖石頭大師』『梅尾高山寺明

恵上人』などがあり、三十九年十一月十三

日に九十歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』

『現代仏教家人名辞典』『大乘禪』第九巻第

三号『風儀鐘韻』『皓台寺誌』)

むらかみーそりゆう 村上祖龍

一明治三十八年(一九〇五)

出雲市日光寺、出雲市神宮寺十七世。号は

雲山。本師は玉海良暉。明治三十八年九月

二十四日に示寂した。

むらかみーてんしゆう 村上天宗

明治元年(一八六八)一昭和十一年(一

九三六)

出雲市永昌寺十世、出雲市東白寺、佐野市

永台寺十八世。号は心應、雲陽、晃巒。明

治元年七月六日に島根県出雲郡西村字原

の後藤夫二郎の三男として生まれた。受業

師は永井大暁、本師は久我覚天。九歳で豊

龍寺の金山俊龍に従って仏典を学び、明治

十一年(一八七八)三月に久我覚天の薫陶

を受け、十六年には讓伝寺に入衆した。十

七年に国泰寺の獨秀に参随し、次いで曹洞

宗専門支校に入り、また、土肥實香の門に

入って漢学を修めた。二十二年春、覚天の

法を嗣ぎ、東京に出て原坦山を訪ね、曹洞

宗大学林に入った。二十七年五月に永昌寺

に帰山し、学教檀林を設立して宗門子弟を

薫陶した。青年徳教会を起し、地方青年

の指導に任じ、三十二年には曹洞宗中学林

教授に任命された。その後、慈済会本部委

員、栃木県宗務支局教導取締、曹洞宗教導

講登院幹事、曹洞宗布教会理事、寺院等級

査定員、曹洞宗両本山布教師などを歴任し

た。昭和十一年二月十八日に六十九歳で示

寂した。(『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名

辞典』)

むらかみーどうりゆう 村上道隆

明治三十四年(一九〇一)一昭和四十九

年(一九七四)

山梨市信盛院。明治三十四年十月十八日に

愛知県に生まれる。本師は近藤道順。龍拈

寺僧堂講師、朝鮮布教総監部主事を務め、

三重選区から宗会議員に出て、庶務、財

務、総務各部長を歴任し宗会議長も務め

た。總持寺では副監院、監院、侍局長とな

り、總持寺出張所伝叟院の住職も兼ねてい

た。その他、龍拈寺僧堂講師、朝鮮京城別

院駐在布教師、朝鮮布教総監部主事、宗務

院書記、大雄山侍局長、社会教育委員、児

童教護委員、村農地委員長、農業会長な

ども務める。昭和四十九年四月十三日に七

十三歳で示寂した。(『洞門龍象要覽』『跳

龍』第三一四号)

むらかみーほじょう 村上保成

明治二十五年(一八九二)一昭和五十八

年(一九八三)

三原市耽源寺十五世。号は大菴。明治二十

五年十月五日に広島県雙三郡酒河村大字西

酒屋に生まれる。受業師は高橋奇雲、本師は菅良雲。明治三十九年（一九〇六）に瑞応寺専門僧堂及び宗光寺認可僧堂に安居し、四十二年九月より曹洞宗立第四中学校に入学した。准師家、管内布教師、教区長、布教委員、特派布教師、宗務所々會議員、報国会錬成指導員、曹洞宗宗議會議員、方面委員、社会教育委員、司法保護委員、村會議員、長谷村々長などを務めている。昭和五十八年十一月九日に九十二歳で示寂した。（『洞門龍象要覽』『長谷村誌』）

むらかみーりゆうりん 村上龍鱗

一五 安政五年（一八五八）―大正四年（一九一五）

福井県今立郡阿弥陀寺十六世、大野市曹源寺、大野市宝慶寺四十七世。号は赤梢。安政五年四月八日に越前国今立郡国村の村上弥次兵衛の五男に生まれた。受業師、本師は笠松戒鱗。明治十二年（一八七九）四月に石川県師範学校を卒業した後、曹洞宗専門支校に学び、十八年に曹洞宗大学林を卒業する。永平寺、總持寺に安居し鷹林冷

生、羽衣单靈などに参随する。曹洞宗専門支校、小學校、中學校、大學林などで教鞭をとった。福井県曹洞宗宗務所長、監事、管内布教師、宗議會議員なども務め、大正四年十二月十日に示寂した。（『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』）

むらかみーりようゆう 村上良融

一六 嘉永二年（一八四九）―大正五年（一九一六）

氣仙沼市少林寺、氣仙沼市補陀寺十九世。号は悟三。嘉永二年五月八日に宮城県本吉郡松岩村の村上市治の次男として生まれる。受業師は泰道、本師は太賢。明治二年（一八六九）四月八日に仙台市の松音寺の達宗について立職、五年十月二十八日に宝鏡寺の太賢に嗣法。十年十月十日に氣仙沼市の少林寺より補陀寺に転住し、大正五年八月二十九日に示寂した。

むらさきーぎけん 紫義賢

一七 明治四十二年（一九〇九）

松江市禅慶院、松江市清光院二十一世、松

江市龍徳寺十二世。号は俊令。島根県八束郡宍道町の小幡喜方の子として生まれる。

受業師、本師は紫普巖。明治四十二年十二月十五日に示寂した。（『明教新誌』第四四九四号）

むらせーじげん 村瀬慈元

一八 明治十八年（一八八五）

弥富市大慈寺九世。号は大音。愛知県海部郡弥富町大字平島新田の村瀬家に生まれる。本師は大軌慈範。明治十八年旧六月二十三日に示寂した。

むらせーしゆうが 村瀬宗賀

一九 安政五年（一八五八）―昭和十一年（一九三六）

東京都南臺寺三十世、東京都松雲寺、東京都陽泉寺二十世。号は慶雲。安政五年正月四日に生まれる。受業師、本師は大徹。明治四年（一八七一）より十二年二月まで泉岳寺の泰然に随侍し、十一年九月には南臺寺に首先住職、三十一年五月に松雲寺へ転住、三十二年七月に陽泉寺へ転住した。東

京の仏教会などで布教の面で活躍した。昭和十一年一月一日に示寂した。(『曹洞宗名鑑』)

むらせーしんぎょう 村瀬信行

昭和十七年(一九四二)ー平成九年(一九九七)

彦根市清涼寺、大津市長福寺、東近江市地福寺、彦根市長松院、彦根市天寧寺、彦根市報慈寺。昭和十七年一月三日に大阪市東成区で生まれた。本師は村瀬篤信。駒澤大学仏教学部禅学科を卒業し、永平寺、總持寺、タイ国ワットパクナム寺に安居した。滋賀県曹洞宗青年会会長、滋賀県嶽山会副会長、参禅道場師家、教区長、管内布教師、宗議会議員、宗務所長などを務めた。平成九年七月一日に五十五歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』「宗報」第七四三号、「傘松」第六四七号)

むらせーそこう 村瀬素孝

明治十六年(一八八三)ー昭和四十一年(一九六六)

名古屋市金剛寺三世、甲斐市安楽寺二十二世。明治十六年一月十五日に名古屋市南区大瀬子町に生まれる。本師は山田奕鳳。總持寺、豪徳寺、最乗寺に安居。教区長を務める。昭和四十一年八月三十一日に八十二歳で示寂した。(『洞門龍象要覧』)

むらせーとくしん 村瀬篤信

明治三十六年(一九〇三)ー昭和四十一年(一九六六)

彦根市清涼寺。明治三十六年十二月二日に岐阜市上太田町に生まれる。本師は稲寸篤恭。大正十三年(一九二四)に曹洞宗第三中学林を修了し、比叡山横川得度御霊蹟顕彰の中心者であり、滋賀県宗務所長などを務めた。昭和四十一年十二月十一日に六十三歳で示寂した。(『洞門龍象要覧』「傘松」第三〇二号)

むらたーかんぜん 村田観禅

京丹後市福聚院、京都府与謝郡振宗寺、宮津市正印寺十八世、福知山市久昌寺二十二

世。号は革法。本師は谷垣祖寛。福寿寺、振宗寺各僧堂に安居。(『明教新誌』第二三七四号)

むらたーけんこう 村田顕晃

明治三十三年(一九〇〇)ー昭和五十九年(一九八四)

米沢市林興庵、米沢市長慶寺十七世、酒田市冷泉寺三十一世。号は慈雲。明治三十三年五月二十五日に山形県飽海郡平田町中野俣の村田較山の長男として生まれる。受業師、本師は村田較山、大洞良雲に参随した。梅檀中学林を卒業した後、東洋大学文学部印度哲学科を修了し、可睡齋僧堂に安居した。昭和十四年(一九三九)より四十年まで管内布教師、三十四年より五十年まで民生児童委員を務めた。昭和五十九年五月六日に八十五歳で示寂した。

むらまつーりょうかん 村松良寛

安政三年(一八五六)ー明治三十七年(一九〇四)
牧之原市大興寺二十五世。号は義方。安政

三年十二月八日に静岡県榛原郡榛原町庄内の本杉元蔵の弟として生まれる。受業師、本師は西原祥山。宗務所長、朝鮮布教師などを務めた。明治三十七年九月十二日に四十八歳で示寂した。(『大興寺歴住世代帳』)

むらやすーげんれい 紫安玄諦

一昭和十三年(一九三八)

人吉市永国寺三十七世、熊本県球磨郡古見院十一世。号は幽徹。明治四十年(一九〇七)五月十八日に永国寺の再中興になった。熊本県第一曹洞宗務所長なども務め、昭和十三年十二月三日に八十三歳で示寂した。(『現代仏教家人名辞典』)

むらやすーしんずい 紫安真瑞

文政八年(一八二五)一明治十七年(一八八四)

長浜市宗雲寺、加古川市安養寺、兵庫県加古郡福勝寺、豊岡市養源寺二十六世。号は梅岳。文政八年に元出石藩士族某の子に生まれる。訳あって大阪九良右エ門町の商家太兵衛なる者に養育された。受業師、本師

は恵紋。瑞龍寺に安居した後、越後蒲原郡橋田村の若松院の月教の下に五年間掛錫し、越前志井口の国正寺の瑞門に三年、上州前橋の龍海院にも三年、駿州島田の静居寺にも三年掛錫した。廃仏毀釈によって疲弊した養源寺を弟子の紫安石雲の補佐によって復興する。明治十七年八月十八日に五十九歳で示寂した。(『明教新誌』第一〇九五号、第一二一七号、『石雲老師伝』)

むらやすーせきうん 紫安石雲

天保十四年(一八四八)一明治三十二年(一八九九)

豊岡市養源寺二十七世、養父市林泉寺、豊岡市極楽院、加古川市安養寺十五世。号は瑞芳、別号は雲英、松菓道人。天保十四年六月十五日に肥前島原須川の高橋茂平の長男として生まれる。受業師は羅溪肯庵、本師は梅岳真瑞。皓台寺に安居すること五年、慶応二年(一八六六)より三ヶ年、梅檀林に遊学する。明治十二年(一八七九)八月に林泉寺住職、十四年二月に極楽院へ転住して再興、十七年八月には養源寺

住職となり、同年夏に結制初会を修行、十九年には円通寺の日置黙仙とともに神戸に聯芳学林を設立し、その維持拡張に努めた。二十年には曹洞扶宗会設立にあたり、その首唱者の一人として名を連ね、二十一年には有志会の結成に際して副議長を務め、同年に兵庫県第三号宗務支局教導取締を務めている。二十五年に總持寺分離独立運動が起るや非分離説を唱え、長松寺の秦慧昭らとともに遊説した。明治三十二年四月二日に五十七歳で示寂した。(『洞上高僧月旦』『石雲老師伝』、『道交』第一九五号、第一九九号、『近代曹洞宗法語精選』坤)

むらやまーこうどう 村山廣道

明治二十年(一八八七)一昭和二十八年(一九六三)

京都市宝福寺、大阪市吉祥寺。明治二十年三月二十一日に大阪市天王寺区六万休町に生まれる。受業師、本師は杉山虎道。明治三十九年(一九〇六)三月二十五日に大阪府立天王寺中学校を卒業、四十四年七月二日に曹洞宗大学を卒業し、大正三年(一九

一四)四月一日に管内布教師、七年一月二十四日に大阪府第一宗務所第一組長、八年六月四日に曹洞宗準師家、九年二月一日に両本山巡回布教師、十三年五月二十八日に軍人布教師、十一月十日に大阪市教化委員、昭和二年(一九二七)十月一日に大阪通信局嘱託講師を拝命した。三年四月二十五日には永平寺授戒会焼香師、七年六月二日に曹洞宗師家、十一年三月十六日に總持寺授戒会焼香師、十二年三月十五日に總持寺での後醍醐天皇六百回忌法要布教師、十四年一月九日に文部省宗教局勤労者教育中央会講師、十七年五月三十一日に永平寺副監院、二十一年二月十一日に大阪府特別布教師、九月一日に永平寺因脈大授戒会引請師、十一月二十五日に參禅道場師家、二十三年九月一日に高祖大師大遠忌事務局宣伝部副部長、二十四年七月二十三日に曹洞宗宗議會議員、二十五年七月二十日に特派布教師、二十六年には高祖大師七百回忌香資勸募専使、二十七年三月十日に高祖大師七百回忌妙高台総都監、同年に大広寺専門僧堂堂長に任ぜられ、六月十八日には師家、

六月二十五日には教育審議会委員に任ぜられ、七月十五日に特派布教師を拝命、二十八年五月二十九日永平寺副監院を拝命しており、著書に『禅と修養』がある。二十八年八月十四日に六十七歳で示寂した。(『履歴書』『曹洞宗現勢要覧』『傘松』第二三三号)

むらやまーぶんゆう 村山文雄
明治三十一年(一八九八)ー昭和五十五年(一九八〇)

天童市永源寺二十三世。号は大典。明治三十一年十一月十五日に山形県東村山郡寺津村に生まれる。本師は林千丈。大正七年(一九一八)に曹洞宗第二中学林を卒業し、永平寺僧堂に安居。昭和十二年(一九三七)三月下旬に晋山し結制、大授戒会を厳修する。教区長、宗務所管内布教部布教師、總持寺太祖大師例歳御忌焼香師、布教委員、方面委員、民生委員、村民生委員会常務委員、司法保護委員、保護司などを務めた。五十五年四月二十四日に八十一歳で示寂した。(『洞門龍象要覧』)

むろずみーけんりゆう 室住賢龍
明治七年(一八七四)ー昭和二十三年(一九四八)

山梨市長源寺二十一世、甲府市清泉寺十二世、山梨市東前寺十六世。号は真巖。明治七年十一月二十五日に山梨県西山梨郡国里村に生まれる。受業師は庵大亀、本師は村杉賢光。明治二十三年(一八九〇)四月に山梨県専門支校中學校林学科一年を修了し、二十九年七月に哲学館の宗教部全科を修了した。昭和二十三年二月九日に七十三歳で示寂した。(『現代仏教家人名辞典』)

むろたにーちかく 室谷知寛
ー昭和三十六年(一九六一)

長野県北安曇郡源長寺五世、富山市常安寺、富山市勝光寺。号は文翁。富山県高岡市に生まれる。本師は仏晃法照。昭和三十六年十月十五日に八十四歳で示寂した。

むろはしーかくほう 室橋廓芳
ー昭和六年(一九三一)

南魚沼市楞嚴寺二十三世、南魚沼市正眼寺

二十八世、南魚沼市龍泉院二十四世。号は惠林。新潟県古志郡栖吉村の室橋與三石工門の三男として生まれる。受業師、本師は小林璞文、新井石禪に参随する。昭和六年九月五日に示寂した。(『現代仏教家人名辞典』)

むろみねーばいいつ 室峰梅逸

明治三十二年(一八八九)ー昭和六十一年(一九八六)

笛吹市広厳院。明治三十二年三月七日に石川県珠洲郡木郎村に生まれる。本師は小野田梅芳。昭和三年(一九二八)に駒澤大学を卒業し、管内布教師、總持寺教育係、副悦、常照殿司、知客、副寺、副監院、監院などを務めた。宗外では石川県教育会講師、方面委員、司法保護委員、教育会委員などを務めており、昭和六十一年三月九日に八十六歳で示寂した。(『洞門龍象要覽』)

め

めらーこうどう 目良弘道

明治三十七年(一九〇四)ー平成五年(一九九三)

岐阜市円光寺十三世、宇佐市仲月庵。号は雪洋。明治三十七年一月二十二日に長崎県杵岐郡郷ノ浦町の目良大機の次男として生まれる。受業師、本師は目良大機。昭和三年(一九二八)に東洋大学を卒業し、四年から十六年まで朝鮮開教師を務める。三十四年から三十九年まで長崎県第三宗務所長を務めた。平成五年八月二十七日に九十歳で示寂した。(『洞門龍象要覽』)

ゆ

ゆあさーちんれい 湯浅椿齡

ー大正六年(一九一七)

名古屋市永安寺三十世、深谷市昌福寺四十

世、豊後高田市多福院二十八世。号は劫外。愛知県清須市清洲に生まれる。受業師、本師は織田雪巖。大正六年二月十日に五十七歳で示寂した。

ゆうきーせきおう 結城石翁

明治十九年(二八八六)ー昭和三十一年(一九五六)

新庄市長泉寺二十世、新庄市龍雲院十六世。号は月珊。明治十九年八月五日に山形県東根市長瀨の結城家に生まれる。受業師、本師は石山玄翁。新潟市の大栄寺僧堂に安居する。宗務所長を二期務め、昭和三十一年三月八日に七十一歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覽』)

ゆうきーだいえん 結城大円

ー昭和四十八年(一九七三)

大津市宗清寺四世。号は星光。滋賀県草津市山田で生まれる。受業師、本師は晋山大道。大正四年(一九一五)に大津高等学校二年級を卒業し、四年より昭和四年(一九二九)まで清涼寺僧堂に安居する。特

派、管内布教師や華道御幸遠洲流の教師を務める。昭和四十八年八月十四日に七十二歳で示寂した。

五十七号)

ゆずりはーたいせん 樺太仙

元治元年(一八六四)ー昭和三年(一九

二八)

松江市洞光寺三十五世、東京都法音寺。号は梵州。元治元年十二月二十五日に広島県比婆郡東城村の樺好右衛門の長男に生まれる。受業師は國枝太雲、本師は谷堅法。魁沢重知、森田悟由、福山黙堂らに参随する。明治二十三年(一八九〇)に曹洞宗大造林に入学し、二十六年四月に卒業。曹洞宗大造林副学監を務めた後、従軍布教師となり近衛師団に従って台湾に渡る。日清紡績、郵便局布教師、上宮教会講師、歩兵六十三聯隊布教師、松江郵便局布教師なども務める。大正元年(一九一二)から宗会議員となり、その他、島根仏教奉公団副総裁、松江保護会長も務めた。昭和三年五月十四日に六十五歳で示寂した。(洞光寺歴史過去帳)、『曹洞宗名鑑』、『宗教時報』第